

専門分野 I 基礎看護学	科目名：看護学概論	根本 三枝子（看護師）	1 単位 30 時間 (1 年次前期)	
学習目標	1. 看護の本質を理解し、総合保健医療体系の中で、看護の概念を明確にする。 2. 看護の対象としての人間を身体的・精神的・社会的統一体として理解する。 3. 人間のライフサイクルにおける健康の意義について理解する。 4. 保健医療福祉チームにおける看護の役割を理解し看護活動のあり方を理解する。 5. 看護の歴史を通して、現在の看護の位置付け及び諸問題を理解する。			
回数	主題	講師名	主な学習内容	
1	看護学とは	根本	1. 看護学の構成 2. 看護学概論の位置づけと学習目的・目標・主な内容 3. 看護における技術とは	
2	看護とは		1. 看護の定義 2. 私たちが目指す看護師像	
3	看護の対象としての 人間		1. 全体としての人間 2. ヒトが「人間」であるための条件	
4			3. 患者の心理	
5	健康と生活		1. 健康のとらえ方 2. 健康の段階 3. 健康への影響要因 4. 国民全体の健康状態 5. 健康に生活するとは	
6				
7	看護理論		1. 看護理論とは 2. 看護理論の理解と活用	
8				
9	看護の機能と役割		1. 看護職者の倫理 2. 看護活動 3. 看護管理	
10				
11	看護職員と保健医療 福祉サービスの理解		1. 看護職員 2. 保健医療チームと看護チーム 3. 看護活動の場	
12				
13	看護と社会		1. 看護の歴史 2. 看護制度と看護行政 3. 看護師の職業的地位と専門職業集団 4. 社会の変化とこれからの看護	
14				
15	終講試験		筆記試験、まとめ	
履修上の留意点	1. 常に持参のテキストは「看護学概論」 他は必要時指示			
1) テキスト 2) 参考書	1) 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学(1)看護学概論 医学書院 2) F. ナイチンゲール著：看護覚え書き、現代社 2) 日本看護協会監修：看護者の基本的責務一定義・概念/基本法/倫理、 日本看護協会出版会 2) ヴァージニア・ヘンダーソン：看護の基本となるもの、日本看護協会出版会			
評価方法	1. 筆記試験 2. レポート			

専門分野 I 基礎看護学	科目名：看護倫理	根本 三枝子（看護師）	1 単位 15 時間 (3 年次前期)	
学習目標	1. 看護者としての基本的責任を果たすために、看護者のあり方に対する倫理を理解する。 2. 医療・看護における倫理の歴史的経緯を理解する。 3. 倫理の原則と看護者の倫理綱領を理解する。 4. 倫理的ジレンマと倫理問題の解決への基本プロセスを理解する。			
回数	主題	講師名	主な学習内容	
1	倫理とは	根本	1. 倫理とは何か 2. 道徳的思考とは 3. 人間の行動と価値 4. 看護倫理のベースとなる倫理理論	
2	看護倫理とは		1. 看護倫理とは 2. 看護倫理を学ぶ意義 3. 看護の倫理原則 4. 看護者の倫理綱領	
3	看護倫理の歴史		1. 医学の発達に伴う倫理的問題の出現 2. 現代医療における倫理的問題 3. 国際及び日本の倫理綱領の変遷	
4	職業倫理		1. 生命の尊厳 2. 患者の権利擁護 3. 守秘義務の厳守 4. 個人情報の保護 5. 説明と同意 6. 看護師としての自覚と責任	
5	倫理的な問題への対応		1. Rest の倫理的な行動の 4 要素 2. 事例における倫理的意思決定	
6	倫理的問題へのアプローチ		1. 事例検討	
7			筆記試験	
8	終講試験			
履修上の留意点		1. 常に持参のテキストは「看護倫理」 他は必要時指示 2. 配付資料は全て持参 3. 学習形態はその都度指示		
1) テキスト 2) 参考書		1) 系統看護学講座 別巻 [13] 看護倫理 医学書院 2) 看護者の基本的責務－定義・概念/基本法/倫理（日本看護協会出版会）		
評価方法		1. 筆記試験 2. レポート 3. グループ発表		

専門分野 I 基礎看護学	科目名：共通基本技術	内山 真希（看護師） 田中 栄一（看護師）	1 単位 30 時間 (1 年次前期)	
学習目標	1. 看護におけるコミュニケーションの特徴と意義を理解できる。 2. 看護における記録の意義と方法が理解できる。 3. 感染予防の意義と方法を理解し、感染を予防する基本的技術を実施できる。 4. 看護における安全の意義と事故防止を理解できる。 5. 看護に必要な指導技術を理解できる。			
回数	主題	講師名	主な学習内容	
1	コミュニケーション	内山	1. コミュニケーションの意義と目的 2. コミュニケーションの構成要素と成立過程 3. 関係構築のためのコミュニケーションの基本 4. 効果的なコミュニケーションの実際 5. コミュニケーション障害への対応	
2			1. 看護における記録 2. 記録の種類と注意事項 3. 看護記録の管理 4. 報告の目的、種類、方法	
3			1. 看護における安全 2. 安全に影響を及ぼす要因 3. 看護のための安全管理 4. 事故防止のための看護技術 5. 医療過誤、医療事故の原因と対策	
4			1. 看護における学習支援 2. 健康状態の変化に伴う学習支援 3. 看護の中に含まれる学習支援	
5			1. 感染発生のメカニズム 2. 標準予防策（スタンダードプリコーション） 3. 感染経路の遮断 4. 病院環境と感染防御	
6			【校内演習】 手指衛生・個人防護用具	
7			【校内演習】 無菌操作・滅菌物の取り扱い・ガウンテクニック 感染症廃棄物の取り扱い	
8			感染防止対策にかかわる技術の確認	
9	感染予防の基本的技術	田中	筆記試験/まとめ	
10	感染予防対策		【校内演習】 手指衛生・個人防護用具	
11	感染防止の技術		【校内演習】 無菌操作・滅菌物の取り扱い・ガウンテクニック 感染症廃棄物の取り扱い	
12			感染防止対策にかかわる技術の確認	
13				
14	技術チェック			
15	終講試験	内山		
履修上の留意点		・すべての時間は講義形式を基本とするが、学生の学びを促すために 適宜グループワークを取り入れる。 ・提示する DVD・動画を活用し校内実習前後の自己学習を行い参加する。		
1) テキスト 2) 参考書		1) 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I 医学書院 1) 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [3] 基礎看護技術 II 医学書院 2) 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院		
評価方法		1. 筆記試験		

専門分野 I 基礎看護学	科目名:日常生活の援助技術 I【環境・衣】	五幾田芳枝(看護師) 名達 悠里(看護師)	1単位 30時間 (1年次前期)	
学習目標	1. 環境の意義と援助の必要性を理解し、看護技術を習得する。 2. 看護における衣生活の意義と援助必要性を理解し、看護技術を習得する。			
回数	主題	講師名	主な習内容	
1	人間と環境	五幾田	1. 環境とは 2. 人間の生活に影響を及ぼす外部環境因子	
2	療養生活の環境		1. 患者の生活環境 2. ナイチンゲールから学ぶ生活環境を整える意義	
3			1. 病室の環境と病床内環境 2. 病床を整える援助技術 3. 患者の療養空間の実際	
4	生活環境のアセスメント		【校内演習】ベッド周囲の環境 ベッド・リネンの取り扱い	
5			【校内演習】ベッドメーキング	
6			【校内演習】リネン交換	
7	病床を整える技術の実際(1)		【校内演習】臥床患者のシーツ交換	
8	病床を整える技術の実際(2)			
9	病床を整える技術の実際(3)			
10	技術チェック	名達	臥床患者のシーツ交換	
11	衣生活の意義		1. 衣服を用いることの意義 2. 病衣の選択と条件	
12	寝衣交換の援助		1. 寝衣交換の目的と方法の選択 2. 患者の状態に合わせた寝衣交換の援助方法	
13	臥床患者の衣生活の援助(1)		【校内演習】臥床患者の寝衣交換(病衣)	
14	臥床患者の衣生活の援助(2)		【校内演習】臥床患者の寝衣交換(和式寝衣)	
15	終講試験	五幾田	筆記試験/まとめ(環境・衣生活)	
履修上の留意点		<ul style="list-style-type: none"> すべての時間は講義形式を基本とするが、学生の学びを促すために適宜グループワークを取り入れる。 提示されるDVD等動画を活用し、校内実習前後の自己学習を行い参加する。 		
1) テキスト 2) 参考書		1) 統一看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [3] 基礎看護技術 II 医学書院 1) ナイチンゲール著: 看護覚え書き、現代社 2) 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院		
評価方法		1. 筆記試験		

専門分野 I 基礎看護学	科目名：日常生活の援助技術Ⅱ 【食事・排泄】	石崎 亜記（看護師） 田中 栄一（看護師）	1単位30時間 (1年時前期)
学習目標	1. 食事栄養の意義と援助の必要性を理解し、対象にあった看護技術を習得する。 2. 排泄の意義と援助の必要性を理解し、対象にあった看護技術を習得する。		
回数	主題	講師名	主な学習内容
1 2 3	食事と栄養	石崎	1. 食事と栄養の意義 2. 健康な食生活と食事摂取基準 3. 食事と栄養に影響する因子 4. 食事と栄養のアセスメント
4 5	食事の援助の基本		1. 医療施設で提供される食事 (食事療法と看護、治療食、療養食) 2. 噉下の構造と嚥下のメカニズム・食事援助の基本 3. 食事摂取の自立困難な人への援助 (対象に合わせた援助の基本：非経口栄養摂取など) 4. 噉下障害のある人への援助
6	食事介助の実際		【校内演習】対象に合わせた食事援助・食事介助を受ける患者の気持ちの理解
7	排泄	田中	1. 排泄の意義 (排泄器官の機能と排泄のメカニズムなど) 2. 排泄に影響する要因とアセスメント 3. 排泄の観察とアセスメント
8	自然な排泄を促す援助		1. 自然な排泄を促す援助・援助方法の選択と看護 1) トイレ・ポータブルトイレでの排泄の援助 2) 床上での排泄の援助（講義では「オムツ」を含む）
9 10 11	自然な排泄が困難な人への援助		【校内演習】床上排泄が必要な患者への援助 尿器・便器を用いた排泄援助（「オムツ」の技術演習は「清潔」の单元で）
			1. 排泄困難の援助方法（排泄困難とは） 1) 一時的導尿、持続的導尿 2) 排便を促す援助（浣腸、摘便） 3) 尿失禁、便失禁のある人への援助
12 13 14	排泄援助の実際		【校内演習】一時的導尿 【技術チェック】一時的導尿 【校内演習】グリセリン浣腸
15	終講試験		筆記試験 45 分・まとめ 45 分
履修上の注意	1. テキスト・参考図書を活用して、予習をして授業に臨むこと 2. グループワークでは、他者の意見を積極的に聞き、自己の意見を述べること。 3. 計画的に技術練習をして、食事や排泄の援助技術に臨むこと		
1) テキスト 2) 参考書	1) 統系看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [3] 基礎看護学技術 II 医学書院 2) 根拠と事故防止から見た 基礎・臨床看護医術 医学書院		
評価方法	筆記(食事：50点 排泄：50点 計100点)を実施する		

専門分野 I 基礎看護学	科目名:日常生活の援助技術III 【活動・休息・姿勢】	名達 悠里 (看護師)	1 単位 30 時間 (1 年次前期)	
学習目標	1. 活動の意義と援助の必要性を理解し、看護技術を習得する。 2. 睡眠・休息の意義と援助の必要性を理解し、看護技術を習得する。			
回数	主題	講師名	主な学習内容	
1	人間にとつての活動	名達	1. 活動・休息の意義 2. 日常生活動作 3. 活動と休息のバランス	
2	基本的な姿勢と体位		1. よい姿勢 2. 基本肢位と良肢位 3. 体位の種類と特徴 4. ボディメカニクス	
3			5. 活動・運動の生理学的メカニズム 6. 体位保持 7. 安静の効果と弊害/身体不動性の影響 8. 徒手筋力テスト MMT 9. 関節可動域訓練 ROM 10. 安静保持を強いられる患者の援助	
4			1. ボディメカニクス 2. 水平移動(左右、上方) 3. 仰臥位から側臥位、側臥位から仰臥位の体位変換 4. 側臥位、半側臥位の体位保持 5. 側臥位から仰臥位の体位変換 6. 2人で行う上方移動	
5	体位変換・移動の実際		1. 仰臥位から長座位、長座位から端座位、端座位から仰臥位への体位変換 2. 仰臥位の体位保持 3. 座位から立位、立位から座位への移動援助 4. 仰臥位からファウラー位への体位変換 5. ファウラー位の体位保持	
6			1. 車椅子の各部名称・取扱方法 2. 車椅子移乗・移送	
7	歩行の介助		1. ストレッチャーの各部名称、取扱方法、移乗・移送の方法 2. 移乗用リフト各部名称、取扱方法、移乗・移送の方法	
8			【校内演習】水平移動・仰臥位から側臥位、仰臥位から端座位、端座位から立位	
9			【校内演習】車椅子移乗・移送、ストレッチャー移乗・移送	
10			【校内演習】徒手筋力テスト MMT、関節可動域訓練 ROM	
11			1. 歩行介助の方法と留意点 2. 移動・移乗の補助具の種類と看護	
12	睡眠と休息の援助		1. 睡眠・休息の意義 2. 睡眠の種類 3. 睡眠制御のメカニズム	
13			4. 睡眠障害のアセスメント 5. 睡眠と休息の援助の実際 6. 罫法 7. リラクゼーション	
14			【校内演習】 罫法、リラクゼーション	
15	終講試験		筆記試験・まとめ	
履修上の留意点		<ul style="list-style-type: none"> すべての時間は講義形式を基本とするが、学生の学びを促すために、適宜グループワークを取り入れる。 提示されるDVD等動画を活用し、校内実習前後の自己学習を行い参加する。 		
1)テキスト 2)参考書		1)系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[3] 基礎看護技術 II 医学書院 2)根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院		
評価方法		1. 筆記試験 100 点		

専門分野Ⅰ 基礎看護学	科目名：日常生活の援助技術IV 【清潔】	内山 真希（看護師） 石崎 亜記（看護師）	1単位 30時間 (1年次前期)
学習目標	清潔の意義と援助の必要性を理解し、身体の清潔を保持することで安楽性を高めるための看護技術を習得する。		
回数	主題	講師名	主な学習内容
1	清潔とは	内山	1. 身体の清潔の意義 2. 清潔における看護師の役割 3. 清潔の援助の基礎知識
2		内山	【体験学習】「清潔にする」
3	清潔援助の基本技術(1)	石崎	1. 口腔ケア 2. 整容 3. 洗髪
4	口腔ケア・整容の援助の実際	石崎	【校内演習】 口腔ケア・整容（モーニング/イブニングケア、髭剃り）
5	洗髪の援助の実際	石崎	【校内演習】臥床患者の洗髪
6		石崎	
7	清潔援助の基本技術(2)	内山	1. 入浴 2. 全身清拭
8	清拭の援助の実際	内山	【校内演習】臥床患者の全身清拭
9		内山	
10	清潔援助の基本技術(3)	内山	1. 部分浴 2. 洗浄
11	部分浴の援助の実際	内山	【校内演習（「排泄」講義後）】 陰部洗浄・おむつ交換
12		内山	
13	事例患者への清潔の援助	内山	【校内演習】事例患者の状態に合わせた清潔援助
14	技術チェック	内山	清潔に関するケア
15	終講試験	内山	筆記試験/まとめ
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> すべての時間は講義形式を基本とするが、学生の学びを促すために適宜グループワークを取り入れる。 提示されるDVD等動画を活用し、校内実習前後の自己学習を行い参加する。 		
1) テキスト 2) 参考書	1) 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 2) 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院		
評価方法	1. 筆記試験 2. 技術確認		

専門分野 I 基礎看護学	科目名：フィジカルアセスメント	石崎 亜記（看護師） 内山 真希（看護師）	1 単位 30 時間 (1 年次後期)
学習目標	1. フィジカルアセスメントの意義と方法を理解し、技術を習得する。		
回数	主題	講師名	主な学習内容
1	ヘルスアセスメントと フィジカルアセスメント	内山 石崎	1. ヘルスアセスメントとは 2. フィジカルアセスメントの意義と概要 3. フィジカルアセスメントの基本技術 4. スクリーニングとは 5. 觀察技法の実際
2	バイタルサインとは 体温		1. バイタルサインの意義 2. バイタルサインの影響要因 3. 体温のメカニズムと正常値 4. 体温の異常 5. 体温の測定部位と測定方法
3	呼吸・意識レベル		1. 呼吸のメカニズムと正常値 2. 呼吸の異常 3. 呼吸の測定方法 4. 意識レベル
4	脈拍・心拍		1. 脈拍のメカニズムと正常値 2. 脈拍の異常、 3. 脈拍の測定部位と測定方法 4. 心拍の測定方法
5	血圧		1. 血圧のメカニズムと正常値 2. 血圧の異常 3. 血圧の測定部位と測定方法
6	血圧測定の実際		【校内演習】血圧測定
7	バイタルサイン測定の実際 ①		【校内演習】体温・脈拍・呼吸・血圧測定
8	バイタルサイン測定の実際 ②		【校内演習】体温・脈拍・呼吸・血圧測定
9	技術チェック		バイタルサイン測定
10	呼吸器系のフィジカルア セスメント		1. 症状・徵候の確認 2. 胸部の視診・触診・聴診 3. 呼吸音の特徴 4. 呼吸音の聴診 5. 呼吸音聴診時の留意点
11	循環系のフィジカル アセスメント		1. 症状・徵候の確認 2. 胸部の視診・触診・聴診 3. 心音の特徴 4. 心音の聴診
12	消化器系の フィジカルアセスメント		1. 腹部の視診・聴診・触診・打診
13	感覚器の フィジカルアセスメント		1. 眼位と眼球運動、視野の観察、聽力の観察
14	筋・骨格系と神経系のフィ ジカルアセスメント		1. 関節可動域 ROM 測定、筋力の観察 MMT・握力測定、反射 2. 意識レベル、瞳孔と対光反射
15	終講試験		筆記試験
履修上の留意点		1. 学習形態はその都度指示する。 2. 学習内容によってレポート課題を提示する。	
1) テキスト 2) 参考書		1) 系統看護学講座 専門 I 基礎看護技術 I 基礎看護学 医学書院 2) 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院 2) フィジカルアセスメントガイドブック 目と手と耳でここまでわかる 医学書院	
評価方法		1. 筆記試験	

専門分野 I 基礎看護学	科目名 : 看護過程	高梨 亜紀子 (看護師)	1 単位 30 時間 (1 年次後期)	
学習目標	1. 看護過程を構成する要素とそのプロセス、また看護過程を用いることの意義を理解する。 2. 看護過程の基盤となる考え方を学ぶ。 3. 事例を用いて、ゴードンの機能的健康パターンを用いた記録を記載できる。			
回数	主題	講師名	主な学習内容	
1	高梨	看護過程の概要	1. 看護過程の意義と目的 2. 看護過程の構成要素 3. 看護過程に必要な能力 4. アセスメントの枠組み	
2			1. アセスメントとは 2. 情報収集・情報整理 3. ゴードンの機能的健康パターンに基づく情報整理	
3			【事例展開 1】 1. アセスメントの視点 2. アセスメントの実際	
4		アセスメント	1. 看護診断の意義 2. 看護診断の構成要素 3. 看護診断の種類と表現パターン 4. 共同問題 5. 優先順位の考え方	
5			【事例展開 2】 1. 看護診断の確定 2. 優先順位の決定	
6			1. 看護計画の意義とプロセス 2. 目標の設定 3. 具体策の立案	
7		看護問題の明確化	【事例展開 3】 1. 目標設定・目標表現の具体的指針 2. 具対策の種類	
8			1. 実施の意味とプロセス 2. 評価の意味とステップ 3. サマリー	
9			【事例展開 4】 1. 看護記録の形式 2. 看護記録と看護過程の関連性	
10			筆記試験・まとめ	
11				
12				
13	実施・評価			
14	実施記録と評価			
15	終講試験			
履修上の留意点	1. すべての時間は講義形式を基本とするが、学生の学びを促すために適宜グループワークを取り入れる。 2. 学習内容にそってレポート課題を提示する。 3. 講義には配布資料・パワーポイントを用いる。			
1) テキスト 2) 参考書	1) 系統看護学講座 専門 2 基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I、医学書院 1) 看護診断ハンドブック 第 11 版、医学書院 1) ハダーツ・ゴードンの考えに基づく実践看護アセスメント、ヌーベルヒロカリ *その他、授業のなかで隨時紹介する			
評価方法	1. 筆記試験 2. レポート			

専門分野 I 基礎看護学	科目名：診療に伴う技術 I	五畿田 芳枝(看護師) 名達 悠里(看護師) 村田 麻衣 (看護師)	1 単位 30 時間 (1 年次後期)		
学習目標	1. 診察と検査、穿刺・洗浄の意義、目的を理解し、診察・検査・処置を受ける患者への看護技術を習得する。				
回数	主題	講師名	主な学習内容	講義形態	
1	診療と看護 診察・検査・処置介助	五畿田	1. 診察・検査・処置の目的 2. 診療における看護師の役割と倫理	講義	
2	検体検査と看護		1. 各検査の目的とその看護 検体検査と生体情報のモニタリングの意義 2. 尿検査 3. 便検査 4. 咳痰検査	講義	
3	生体検査と看護		1. 各検査の目的とその看護 2. X 線撮影、CT、MRI、核医学検査 3. 内視鏡検査 4. 超音波検査、肺機能検査、心電図検査、心電図モニター、経皮的動脈血酸素飽和度 SpO ₂	講義	
4			1. 穿刺の概要と看護 2. 胸腔穿刺、腹腔穿刺、骨髓穿刺、腰痛穿刺 3. 胃洗浄の概要と看護	講義	
5	穿刺・洗浄処置と看護		1. 血液検査（静脈血採血、動脈血採血、血糖測定）の目的 2. 静脈血採血と援助の実際	講義	
6	採血	村田	【校内演習】 真空採血管を用いた静脈血の採血		
7	静脈血採血の実際		演習		
8	包帯法	名達	【校内実習】		
9			1. 包帯の種類 2. 包帯の巻き方 環行帶/三角巾を用いた上肢の固定	講義 演習	
10	酸素吸入療法		1. 酸素吸入療法の目的と種類 中央配管（アウトレット）、酸素ボンベ等 2. 使用器具の種類と特徴と取り扱い、援助方法	講義	
11	排痰ケア		1. 体位ドレナージ 2. 咳嗽介助 3. 吸入（超音波ネプライザー・ジェットネプライザー） 4. 吸引	講義 演習	
12	吸引の実際		【校内演習】 一時的吸引：口腔・鼻腔・気管内吸引		
13			演習		
14	技術確認	村田	【技術確認】 末梢静脈血採血	技術確認	
15	終講試験	村田	試験、まとめ（五畿田/名達/村田）		
履修上の留意点		1. 常にテキストは、基礎看護学〔3〕基礎看護技術II 2. 配布資料はすべて持参 3. 学習形態はその都度指示			
1) テキスト 2) 参考書		1) 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学〔3〕基礎看護技術II 医学書院 2) 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院			
評価方法		1. 筆記試験			

専門分野 I 基礎看護学	科目名：診療に伴う技術 II	石崎 亜記（看護師）	1 単位 30 時間 (1 年時後期)
学習目標	1. 与薬の意義と方法を理解し、技術を習得する		
回数	主題	講師名	主な学習内容
1	与薬の意義と看護師の役割	石崎	1. 与薬の基礎知識 1) 与薬とは 2) 薬剤の体内動態 3) 処方箋等 4) 看護師の役割 5) 確認方法：6R（確認の時期と内容） 2. 薬物療法とは 3. 形状と投与経路 4. 薬物動態 5. 正しい与薬 6. 薬の管理 1) 医薬品規定 2) 薬剤保管 3) 毒薬・劇薬・麻薬の管理
2			1. 経口与薬法の援助方法 1) 経口与薬の種類 (1) 内服薬 (2) 経口内薬 2) 服用時間と適応 3) 経口与薬に影響を与える因子 2. その他の与薬法の援助方法 1) 吸入 2) 点眼 3) 点鼻 4) 点耳 5) 経皮的与薬 6) 直腸内与薬
3			1. 注射の基礎知識 1) 注射とは 2) 注射の種類と吸収速度 3) 注射に伴う危険性 (1) 副作用 (2) 注射による医療事故と防止
4			2. 使用物品の名称・構造・接続方法 1) 注射筒 2) 注射針 3) 輸液セット 4) 三方活栓
5			注射（皮内注射・皮下注射・筋肉内注射・静脈内注射）の実際 適応、種類、実施方法（準備方法・血管への刺入・神経損傷確認方法、禁忌・留意点など）
6			物品の準備、アンプル・バイアルからの薬液の吸い上げ方法
7			【構内演習】物品及び薬剤の準備・皮下注射の実際
8			物品及び薬剤の準備（確認方法を含む） 皮下注射の実際の技術チェック
9			点滴静脈内注射・高カロリー輸液などの基礎知識 準備の方法・三方活栓の用い方、輸液セット内への薬液の満たし方、ルート交換の仕方・対象への援助方法・注射部位・刺入・抜去・止血方法・神経損傷確認方法・禁忌・留意点・輸液管理・点滴速度計算方法など
10			点滴静脈内注射の実際 バイアル溶解・薬剤混注 ルートセット・滴下調整
11			
12			
13			
14			
15	終講試験		筆記試験 45 分・まとめ 45 分
履修上の注意	1 テキストは必ず持参。配布資料はすべて持参。学習形態はその都度指示する。		
1) テキスト	1) 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [3] 基礎看護学技術 II 医学書院		
2) 参考書	2) 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護総論 医学書院		
評価方法	筆記試験 100 点		

専門分野 I 基礎看護学	科目名：臨床看護総論	野知 祥子（看護師） 渡部雅也（臨床工学技士） 柏崎市消防署（救急救命士）	1 単位 30 時間 (1 年次後期)
学習目標	1. 症状に伴う患者の看護方法を理解できる。 2. 治療処置に伴う看護方法を理解できる。		
回数	主題	講師名	主な学習内容
1	健康上のニーズを持つ対象者と家族への看護	野知	1. ライフサイクルからとらえた対象者と家族の健康上のニーズ 2. 家族の機能からとらえた対象者の健康上のニーズ 3. 生活と療養の場からとらえた対象者と健康上のニーズ
2	経過に基づく看護		1. 急性期の概念及び看護 2. 回復期の概念及び看護
3	経過に基づく看護		3. 慢性期の概念及び看護 4. 終末期の概念及び看護（死後の処置含む）
4	主要な症状を示す対象への看護①		1. 呼吸障害 2. 循環障害
5	主要な症状を示す対象への看護②		3. 消化・排泄障害
6	主要な症状を示す対象への看護③		4. 意識障害 5. 痛み
7	主要な症状を示す対象への看護④		6. 精神障害
8	治療・処置を受ける対象への看護①		1. 安静療法と看護 (包帯法の種類と包帯法、褥瘡予防を含む) 2. 食事療法と看護 3. 薬物療法と看護
9	治療・処置を受ける対象への看護②		4. 輸血/血液製剤の管理・看護 5. 放射線療法と看護 6. 人工臓器と看護
10	治療・処置を受ける対象への看護③		7. 精神療法と看護 8. 集中治療と看護（ICU、CCU 含む） 救急状況にある患者と家族の看護・緊急時応援要請、救急カード
11	手術療法を受ける患者の看護		1. 手術前・手術中・手術後の看護 2. 手術前看護の特徴・手術室における看護の役割 3. 全身麻酔・局所麻酔時の看護 4. 手術直後から麻酔覚醒までの看護
12	救急法を受ける患者の看護	柏崎市消防署	1. 救急法・救急処置 ・1 次救命処置：心肺蘇生、AED、止血法 ・緊急時応援要請
13	医療機器の原理と実際	臨床工学技士	1. ME 機器の原理と実際（135 分） (講義にて人工呼吸器、輸液ポンプ、シリンジポンプの操作、モントレーョン)
14	終講試験		筆記試験 45 分
履修上の留意点		・演習などはテキスト事前学習を行うこと。他必要時指示。	
1) テキスト 2) 参考書		1) 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [4] 臨床看護総論 医学書院 2) 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院 2) 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [3] 基礎看護技術 II 医学書院 2) 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 2) 新体系看護学全書 経過別成人看護学①「急性期看護クリティカルケア」メガルフレンド社 2) 新体系看護学全書 経過別成人看護学②「周術期看護」メガルフレンド社 2) 新体系看護学全書 経過別成人看護学③「慢性期看護」メガルフレンド社 2) 新体系看護学全書 経過別成人看護学④「終末期看護エンドオブライフケア」メガルフレンド社	
評価方法	1. 筆記試験		

専門分野Ⅰ 基礎看護学	科目名：看護研究	根本 三枝子（看護師）	1単位 15時間 (2年次後期)	
学習目標	1. 看護研究の意義と必要性が理解できる。 2. 看護研究の方法とプロセスが理解できる。 3. 文献検索の方法と活用について理解できる。 4. 看護研究における倫理的配慮の必要性を理解できる。			
回数	主題	講師名	主な学習内容	
1	看護における研究の意義	根本	1. 研究とは 2. 看護研究の意義と必要性 3. 看護研究の種類	
2	看護研究における倫理的配慮と看護研究のプロセス		1. 看護研究における倫理 2. 看護研究における不正 3. 知的財産の保護と利益相反 4. 研究対象者の権利保護 5. 看護研究のプロセス 6. 研究テーマの見つけ方	
3	文献の活用		1. 文献検索の意義 2. 文献の種類 3. 文献検索の方法 4. 文献の読み方、整理の仕方	
4	調査研究の実際		1. 研究計画書作成の目的、構成内容 1. 研究計画書の書き方	
5			2. 調査研究の進め方 3. 調査研究（グループ研究）	
6	データ分析と発表準備		1. 調査結果の分析 2. ポスター発表の準備 3. 発表原稿の作成	
7	研究発表		1. 発表 2. まとめ	
8	終講試験		筆記試験（45分）	
履修上の留意点		日々の実習を通して看護について考えることを大切にし、また看護に関する学会に参加し看護研究についての考えを深める。		
1) テキスト 2) 参考書		1) 系統看護学講座 別巻 医学書院 [14] 看護研究 2) 看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方 照林社		
評価方法		1. 筆記試験 2. GW発表		

専門分野 I 基礎看護学	科目名：看護研究演習	根本 三枝子（看護師）	1 単位 15 時間 (3 年次前期)	
学習目標	1. ケーススタディの意義と必要性が理解できる。 2. ケーススタディの方法が理解できる。 3. 看護研究で学んだ倫理的配慮や文献検索をケーススタディに活用できる。 4. 研究発表の方法を理解し、ケーススタディの発表ができる。			
回数	主題	講師名	主な学習内容	
1	ケーススタディの意義・方法	根本	1. ケーススタディとは 2. ケーススタディの進め方 3. 論文の構成とまとめ方 4. ケーススタディ事例・テーマの決定	
2	看護研究計画書作成		1. 研究計画書の作成	
3	原稿作成		1. 原稿作成	
4			1. 発表の種類 2. 口頭発表の準備 3. 発表原稿の作成	
5	プレゼンテーションの方法		1. ケーススタディ発表 2. 質疑応答、講評 (8 回目/45 分)	
6	ケーススタディ発表		1. 以下のテキスト常に持参 2. 配付資料は全て持参 3. 個人情報を守ること 4. 実習を通して計画的にケーススタディを進めること	
7			1) 看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方 照林社 2) 系統看護学講座 別巻 看護研究、医学書院	
8	評価方法		1. ケーススタディ原稿 2. 発表、成果物	